

臨床研究に関する情報

当院では以下の臨床研究を実施しております。この研究は患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年厚生労働省・文部科学省・経済産業省 告知第1号）の規定により研究内容の情報公開をすることが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら以下のお問い合わせ先へご照会ください。

研究課題名；	tractographyを用いた新規targeting方法の開発
主任研究者名・所属	仁村太郎（脳神経外科）

研究目的

現在、当院でも振戦症状に対して外科治療（RF, DBS, MRgFUS）による治療を行っている。治療においてどこ部位を治療するかは重要な問題であるが、近年、atlas-based targetingからtractography-based targetingへ移行し、Vimをターゲットとした治療成績が向上したとの報告もある。しかし症状改善が顕著である症例も見られる一方で、Vim thalamotomyやVim DBSでは症状の改善が不十分な症例も遭遇することがある。近年tractography-based targetingの報告があるものの実際はatlas-based targetingでtractographyに準拠したtargetingの報告はない。今回我々はtractographyに準拠したtargeting方法を開発を目的としその有効性につきretrospectiveに考察し、有効性と安全性を検討することを目的とした研究を行う。

研究方法

対象となる患者さん

対象は当院で振戦に対してBrainlab Elementsにより作成したtractographyを用いて外科的治療を行った患者全例。

利用するカルテ情報

患者画像データよりデータを抽出し、tractの切壊率、神経核のオーバーラップ率等の相関などを検討した。合わせて年齢や罹患期間、症状、合併症の有無等の患者データとの相関も合わせて使用し解析する。患者はGroup1（凝固巣平均温度>55℃&再発なし）、Group2（凝固巣平均温度>55℃&再発あり）、Group 3（凝固巣平均温度≤54℃&再発なし）、Group 4（凝固巣平均温度≤54℃&再発あり）に分類し、各groupのサンプル数は20症例とした。ただし投稿後に査読者より症例の増加を求められた場合、20例以上の症例になることもありうる。また20例に達せずに解析を終了することもありうると思われる。

研究実施期間

この研究について研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項を除いたうえでお知らせすることができます。研究に利用する患者さんの情報に関しては名前・住所など患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また研究結果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

上記の研究に診療情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

連絡先；

亘理郡山元町高瀬字合戦原100 電話番号:0223-37-1131

担当者（所属）；

仁村太郎（脳神経外科）